

# 江戸時代の本 一人々の学びと楽しみ



## 江戸時代の本　－人々の学びと楽しみ－

江戸時代、武士と農民・商人といった厳格な身分制度がある中で、庶民は文字が読めなかったと誤解されることもあります。識字率は6割を超えていたといわれています。これは藩校や各地に寺子屋が開かれて、庶民が「よみ・かき・そろばん」を学ぶ機会があったためです。

書籍はそれぞれの生業に必要な知識・教養を身につけると共に、娯楽が少なかった時代においては貴重な機会を提供するものでした。

江戸時代は木版印刷技術の発達と庶民の識字率の高まりと読書需要の増加により、書籍の大量生産に伴い多様なジャンルの本が出版されました。生活に必要な実用書や専門書、名所の案内書、大衆向けの小説などが刊行され、現在も多くの本が各地に遺されています。

現在、須坂に残る江戸時代の本はほとんど江戸の出版社（版元・書肆・書林など）が出したものです。現在の須坂市域に本を商う商店があったか不明ですが、参勤交代や江戸との商売などでのついでに購入していたことと思われます。しかし、須坂市域にも幕末になると貸本屋がありました。また、個人間での本の貸し借りもありました。

文書館が収蔵する江戸時代に発刊され武家・農家・商家などに残された本から、当時の人々の学び、暮らし、娯楽などを探ってみます

### 【江戸時代の識字率】

江戸時代の識字率が6割を超えていたといわれる原因は、各地に寺子屋が開かれて、庶民が「よみ・かき・そろばん」を学ぶ機会があったためです。

須坂市域に開かれた寺子屋の数ですが、慶応以前に開業したと推定され、筆塚が残る寺子屋師匠については次の表のとおりです。

### 「須坂市域の筆塚と寺子屋師匠」（市誌4巻P452・453）

旧村名	師匠の身分別人数							計（人）
	医師	僧侶	神官	武士	農民	工匠	商人	
須坂村	5	4		3	2		1	15
小山村	1	5	1		5	2		14
日滝村		3		1	4			8
豊洲村		9		1	2			12
日野村	2	3			4			9
井上村	2	1	2		4			9
高甫村	1	7			4			12
仁礼村	1	2	1		4			8
豊丘村		1			3			4
綿内村	3	1	2		4			10
計	15	36	6	5	36	2	1	101
割合	14.9%	35.6%	5.9%	5.0%	35.6%	2.0%	1.0%	100.0%

### 【印刷方法】

江戸時代の文章は現在のように各文字が離れてはおらず、各文字がつながった連綿体で書かれていたために、一文字ずつを組み合わせて製版することはあまりなく、ページごとに版木を作って印刷する木版印刷でした。

また、木版印刷による刊本の外に、それを筆写した写本も多く残されています。

## 【歌舞伎床本】

床本（ゆかぼん）とは、歌舞伎の義太夫狂言などで、浄瑠璃を語る竹本の太夫が舞台上で使用する台本のことです。義太夫の詞章や節付けのほかに、語り出しのきっかけとなる俳優の台詞や演技、竹本の三味線方の譜や演出などに関する書き込みなど様々な情報が書き込まれています。

### 『仮名手本忠臣蔵 九段目 山科の段』 041-D-85

馬喰町二丁目 森屋治郎兵衛板

#### ◆読下し文

風雅でもなくしやれでなく、しやうことなしの山科に、由良助がわび住居、祇園の茶屋にきのうから、雪の夜明かし朝戻り、牽頭（たいこ）中居に送られて、酒がほたへる雪こかし



### 『伽羅先代萩（めいぼくせんだいはぎ）六ツ目切 政岡飯焚の段』 041-D-84

喰町二丁目 森屋治郎兵衛板

#### ◆読下し文

押し明け入りける跡見送りて政岡がまさなき事も者にはる科は晴れても晴れやらぬ養い君の行く末を誰に問うべき様もなく、心一つのうき思い物案事成り母親の顔を詠むる子松に…



もんじょ紹介 No.32

発行 2025(令和7)年7月

須坂市文書館

須坂市大字須坂 812 番地 2

(旧上高井郡役所内)

TEL 026-285-9041

FAX 026-285-9175